

審議会等の会議結果報告書

【担当課】文化財課（八ヶ岳総合博物館）

会議の名取委員委員 委員 称	博物館協議会		
開催日時	平成 26 年 3 月 27 日（火） 午後 6 時 00 分～午後 7 時 30 分		
開催場所	八ヶ岳総合博物館 研究室		
出席者	浜委員長 浅川副委員長 岡野委員 沖野委員 小口委員 河西委員 小平委員 戸田委員 中村委員 名取委員 藤森委員 牛山教育長 鶉飼尖石考古館長 若宮八ヶ岳総合博物館長 大谷八ヶ岳総合博物館係長 柳川八ヶ岳総合博物館主査 中村尖石縄文考古館係長 田村神長官守矢史料館長		
欠席者	関塚委員 根橋委員 両角委員		
公開・非公開の別	(公開)・非公開	傍聴者の数	
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容（概要）		
牛山教育長（以下、教育長）	1 開会 2 教育長あいさつ 市としてうれしいニュースがある。それは 2 つ目の土偶が国宝に指定されるという。二つもの国宝があるという価値を考えると、私どもの責任を感じる。 茅野市には 3 つのミュージアムがあるが、3 つのミュージアムが果たすべき機能、現状でいいのかどうか、ということについて、忌憚りの無い意見をいただきたい。 総合博物館で市民研究員養成講座を平成 25 年度から立ち上げた。市民研究員は 3 年間で形にしていくという予定であるが、1 年目で、17 人もの人たちが認定証を得るまでになっている。 市民研究員は、長野県内では初めての試みであり、博物活動を進める上では、重要なことである。 これからの博物館は大いに变身していくことと、その博物館が持っている特徴、ベストな機能を発揮していく時代になっていくと思う。 委員の皆様からいただく貴重なご意見を、平成 26 年度に向けて、具体的に生かしていきたいと思う。		
浜委員長	3 協議事項 ・平成 25 年度主要事業報告 ○尖石縄文考古館事業報告（中村考古館係長 説明） 中ッ原遺跡出土土偶が、国宝になったということで、入館者の反応はどうか。		
中村考古館係長（以下、考古館係長）	県外からの反応があった。現在、本物の土偶が、調査のため文化庁が持って行っているが、レプリカでもいいという声が多くあった。		
沖野委員	土偶の貸し出しについてだが、茅野に来なければ、土偶の本物が見られないということではできないか。遺物の貸し出しについての基準はあるか。		

鵜飼尖石縄文考古館長（以下、考古館長）	一般の遺物については、貸し出しの基準はないが、国宝と重要文化財には内規がある。国宝と重要文化財は一度に貸し出さないことになっているが、貸し出しの要望が多いときはレプリカでお願いしている。国宝・重要文化財は基本的に貸し出さない方針である。
名取委員	一昨年尖石縄文考古館へ行ったが、本物があつてよかった。昨年度は、ほとんど考古館に土偶があつたという認識で良いか。
考古館長	昨年度は本物を貸し出していない。レプリカの際はレプリカという表示をしている。
戸田委員	考古館で体験学習を行っているが、個人の来館者の年齢層はどうか。また、常連が多いか。
考古館係長	体験学習を行う個人入館者の年齢層は幅広い。常連の人は土器サークルで活動しているので、一般の入館者である。
戸田委員	近辺の人が多いか。
考古館係長	観光で来た人が記念に作っていきこうということが多い。
戸田委員	体験学習を行う時期はいつか。
考古館係長	体験学習は1年中行っている。
浜委員長	新聞で報道があつたが、縄文支援は来年度からか。
考古館係長	縄文学習はこれまで、いくつかの学校で縄文学習を行ってきた。
教育長	これまで、縄文学習をやってきたベースがあるので、他の学校でも本格的に行いましょうという意味合いである。
若宮八ヶ岳総合博物館長（以下、博物館長）	<p>○八ヶ岳総合博物館事業報告（若宮八ヶ岳総合博物館長 説明）</p> <p>入館者数は減少している。これは、団体の有料入館者が減少したためである。個人の入館者は増加している。また、学校対象の無料の団体は、例年並みで推移している。</p> <p>今年度の一番大きな事業は、収蔵庫の資料整理事業である。自然・民俗・図書資料は、すべてデジタル化して整理した。収蔵庫の整理が終わったので、市民の皆様に見てもらうために、お披露目会を予定している。開催日は6月7日・8日を予定している。博物館資料は博物館にとって最も重要な宝である。</p> <p>2番目に大きな事業は市民研究員の養成事業である。3月23日（日）に、17名に市民研究員認定証を授与した。今後、さらに力をつけたところで、博物館活動に寄与してもらうように進めている。1期3年で進めているが、3年たったときに、きちんとした報告書を作成したい。</p> <p>その次は、企画展を5回行った。開館25周年事業が大きな企画展だった。</p> <p>資料にはないが、市内小学校9校に協力していただいて、星空環境調査を行った。その結果をプリントにまとめたが、詳しいものは『紀要』に掲載予定である。</p>
浜委員長	収蔵資料のデジタル化は、市民はどのように利用できるか。
博物館長	パソコンで検索ができ、その資料が見たいといったときは、公開できるようにしたい。申し出をいただいて、こちらで検索するようにしたい。
戸田委員	収蔵庫を見ることが出来るか。
博物館長	博物館協議会終了後、見学する機会を設ける。
名取委員	午前中文化財審議委員会があつたが、カメラのコレクションを保管して

教育長	<p>欲しいという話が、文化財審議委員会が出たが、博物館に収蔵したらどうかという話があった。</p> <p>茅野市内在住の人で、200 台のコレクションがあるという。産業教育という意味合いが強いので、総合博物館でという話しが文化財審議委員会を出て、意見を求められたので、科学教育がブームなので、子供たちが分解したり組み立てたりといった条件で良ければ博物館で受け取っても良いと回答した。</p>
小口委員	<p>子ども科学クラブと実験工作クラブを見学した。来年度の募集の方法はどのようになっているか。年間 13 回も開催しているが、私どももこんなにやっているのを知らないでいた。広報の件で、どのような方法があるのかと思っていた。このあたりのことをお聞きしたい。</p>
博物館長	<p>子ども科学クラブは、私が担当になる前から行っていた。募集は『広報ちの』に掲載し、また、市内の小中学校で、4 年生以上の児童 1 人に 1 枚ずつチラシを配布している。各グループは定員 25 名で、定員になり次第締め切っている。</p>
小口委員	<p>定員 25 名は少ないのではないか。</p>
博物館長	<p>25 名以上でできる会場がない。</p>
河西委員	<p>博物館の建て替えの見通しはどうなっているのか。</p>
考古館長	<p>答申をいただいて教育委員会内で検討しているが、予算が必要であるため、市長部局と交渉中である。政策調整会議に案件がかかっている。ここで、計画が練られていくと思う。展示の更新について、26 年度に会議がある。</p> <p>展示の更新については、来年度博物館で会議が行われることになる。</p> <p>しかし、来年度から 200 億円の予算の縮減が数年にわたって行われることになるので、どのようにバランスをとって進めていくかは、市の中で大きな課題となっている。</p>
岡野委員	<p>八ヶ岳総合博物館は市民との関わりが少ないと思う。地元の人たちとの関係に活性化の糸口があると思うが、そのような声掛けをしているか。</p>
博物館長	<p>場所がないこともあり、どうぞという声かけはここ 2 年間していない。市民が関わるような博物館にしていきたいと思う。</p>
浜委員長	<p>プラネタリウムについてはどうなっているのか。</p>
考古館長	<p>答申の中に盛り込まれているので、同様の理解でお願いしたい。</p>
中村委員	<p>就学前の子供が親子で参加できる講座はどのように考えているか。</p>
博物館長	<p>残念ながら現在は就学前児童に対応する講座は行っていない。講座に参加する子供の低年齢化は潮流であるので、心に留めておきたい。</p>
浜委員長	<p>子ども科学クラブなどは、小学校 4 年生以上だが、小さい子供が来たときには、対応している。</p>
考古館長	<p>考古館では、0 1 2 3 才のお母さんたちとは別に、与助尾根遺跡に来ている若いお母さんたちのグループがあるが、秋にその子供たちが拾ってきたドングリを粘土に圧して焼いてあげるなどしている。</p>
藤森委員	<p>尖石縄文考古館で当日来て体験できるという講座があるが、博物館はないのか。</p>
博物館長	<p>特にはない。</p>
藤森委員	<p>機織りの受け入れはしていないのか。</p>

大谷博物館係長	<p>機織りは期日をもうけて第2度・土日曜日に行っている。常時ではない。機織りの人の手が空いているときはコースター作りができるが、ボランティアの人が来るタイミングによる。</p> <p>尖石縄文考古館では、当日来て何か作ると、満足する入館者が多い。博物館でもそのようなものがあればいいと思う。</p> <p>○神長官守矢史料館事業報告（田村神長官守矢史料館長 説明）</p>
浜委員長	<p>風習や神話について講座ができないか。</p>
田村神長官守矢史料館長	<p>いろいろ研究をしてみたい。前宮などの周辺については「守矢史料館周辺を歩く」というイベントで行っている。</p> <p>○全体を通して</p>
戸田委員	<p>八ヶ岳総合博物館の外にいくつか立て看板があるが、25年経って錆びているので、取り外したらどうか。</p>
考古館長	<p>わかった。</p>
浜委員長	<p>区の高齢者クラブの会長をしているが、尖石縄文考古館の国宝が2つになったので、見に行こうと言ったが、見に行ったからいいと言われた。何回でも行きたいという博物館にしていかなければならない。縄文文化を支えた自然の素晴らしさを発信してもらいたい。</p>
中村委員	<p>就学前の子供の感性には、大変素晴らしいものがある。『やつがたけのタッチ』という環境絵本をかつて作成した。その原画をこちらで預かっている。絵本と博物館の展示を結び付けて何か行っていきたい。</p>
浜委員長	<p>子供達が遊べるコーナーがあればいい。</p>
小平委員	<p>足を向けてくれる博物館に、ボランティアとしてどのように関わっていけばいいのか、館の方から働きかけてもらいたい。</p>
沖野委員	<p>専門委員会の基本構想で茅野市全域が一つの博物館と言うことで進めていきたいという話があったが、どうしたらいいのかと言うことが具体化していない。一つの館から次の館へ行くという方法が遠いと言うこともあって難しい。茅野市全域がわかるような地図がないのではないかな。観光地図ではなく、歩き地図のようなものがあればいいと思う。そのような地図があれば広がりがあるのではないかな。地図づくりの計画を総合博物館で行えばいいのではないかな。3館をつなぐルート作り、絵解きができるものがあれば良いと思う。きっかけを作るのは総合博物館だと思う。</p> <p>プラネタリウムは簡易なものから始めるのか必要なのではないかな。</p> <p>茅野市以外の人に来るには、地図が不親切だと思う。</p> <p>・その他</p>
考古館長	<p>中ッ原遺跡出土の土偶が国宝に決まったのは、予算が決まってからなので、記念する企画展を行う予算がない。来年度は、ちゃんとした予算を組んで何らかの企画を行うことになる。</p> <p>閉会</p> <p>○収蔵庫の見学</p>